

追悼の辞

本日、このカリラヤの地において、日本人戦没者の慰霊祭が執り行われるに当たり、フィリピン在留邦人を代表し、先の大戦で亡くなられた全ての方々の御霊に、謹んで追悼の言葉を申し述べます。

あの痛ましい大戦の終結から、八十一年の歳月が流れました。ここフィリピンは、第二次世界大戦において最大の激戦地の一つでありました。実に五十万人を超える日本軍将兵に加えて、老人や女性、子供を含む約二万人の民間人の尊い命が失われました。また、日本人犠牲者の数に倍する百十万人以上のフィリピンの方々が、戦渦に巻き込まれ尊い命を落とされました。

フィリピン各地の過酷な戦闘で、あるいは飢えと病に苦しみつつ、祖国日本やご家族の安否を思い、痛烈なる望郷の念を抱きながら無念の死を遂げられた方々に思いを巡らす時、改めて痛惜の念が胸に迫ってまいります。今なおこのフィリピンの地には、故郷に帰ることが叶わなかった数多くの方々の遺骨が眠っているという事実を、私たちは決して忘れてはなりません。

この日本人戦没慰霊碑は、今から五十三年前に、日比両国民が恩讐を超えて平和を願い、両国の関係を未来に向けて友好的なものにしようとの強い祈りを込めて建立されました。

戦後、深い悲しみと憎しみを超克したフィリピンの人々の寛容と赦しの心、そして両国民のたゆまざる努力により、両国は政治、経済、文化の面で活発な交流を重ね、アジアにおいて最も緊密な友好関係を築いております。さらに本年、令和八年は日比国交正常化から七十年という歴史的な節目の年であり、今日の強固な信頼関係の発展に改めて深く思いを致す次第です。

現在、私たち日本人が享受している平和と繁栄、そして約一万二千人の在留邦人がこの地で平穏に暮らすことができるのは、過去の多大なる犠牲と先人たちの平和への願いの上に成り立っています。一方で、世界に目を向ければ、近年各地で新たな争いが勃発し、今この瞬間にも戦渦の中で苦しんでいる人々がいます。戦後八十一年、そして国交正常化七十年を迎えた今、かつて多くの尊い血が流されたこの地において平和の尊さを深く心に刻み、悲惨な記憶を風化させることなく次世代へ語り継ぐことが、私たちの使命であり責任です。

本日、この慰霊碑を前に、全ての戦没者の方々への哀惜の念を新たにし、ご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、日比両国の更なる平和と繁栄、そして世界の恒久平和の実現に向けて努力することを誓い、追悼の言葉といたします。

令和八年八月十五日
マニラ日本人会 会長 岡本 健